

**分析結果報告書[4] 共通試料1(模擬水質試料:一般項目等)
分析方法等【全窒素】**

全窒素

の色が付いた回答欄に選択肢番号をご記入ください。
 の色が付いた回答欄に自由回答をご記入ください。
 の色が付いた回答欄に数値を半角でご記入ください。
 のような図形で選択肢を囲んでも結果には反映されません。
 例: 1. 1未満 2. 1以上2未満 ~~3. 2以上5未満~~ 4. 5以上10未満 5. 10以上

分析主担当者

↓ 回答欄

経験年数(年)		1. 1未満 2. 1以上2未満 3. 2以上5未満 4. 5以上10未満 5. 10以上
実績(年間の分析試料数)		1. 50未満 2. 50以上100未満 3. 100以上200未満 4. 200以上500未満 5. 500以上
分析(主)担当者以外の分析結果の確認		1. あり 2. なし

分析方法等

分析開始日		2023/○/○○の形でご記入ください
分析終了日		2023/○/○○の形でご記入ください
分析方法		1. 紫外線吸光光度法 2. 硫酸ヒドラジニウム還元法 3. 銅・カドミウムカラム還元法 4. 流れ分析法 5. その他
5. その他(右のセルにご記入ください)		
分析に使用した水		1. 蒸留水 2. イオン交換水 3. 超純水 4. その他
4. その他(右のセルにご記入ください)		

試料の保存状況

保存方法 注)		1. 冷蔵所保存 2. 保存しない(直ちに分析) 3. その他
3. その他(右のセルにご記入ください)		
保存温度(°C)		1. 4未満 2. 4以上5未満 3. 5以上6未満 4. 6以上10未満 5. 10以上

注) 冷蔵保存、冷凍保存は冷蔵所保存を含む

希釈操作(実施要領では10倍希釈となっています)

共通試料分取量(mL)		mL
定容量(mL)		mL

加熱分解(紫外線吸光光度法、硫酸ヒドラジニウム還元法、銅・カドミウムカラム還元法)

希釈試料分取量(mL)		mL (分解用試料50mL中の10倍希釈試料の量を記入する。)
ペルオキ二硫酸カリウム溶液の添加量(mL)		1. 10 mL 2. その他
2. その他(右のセルにご記入ください)		mL
分解瓶の種類		1. 四フッ化エチレン樹脂製の瓶 2. 耐熱・耐圧ガラス製の瓶 3. ポリエチレン・ポリプロピレン製の瓶 4. その他
4. その他(右のセルにご記入ください)		
分解瓶の容量(mL)		mL
加熱分解温度(°C)		1. 約120 2. その他
2. その他(右のセルにご記入ください)		°C
加熱分解時間(min)		1. 30 2. その他
2. その他(右のセルにご記入ください)		min

紫外線吸光光度法

加熱分解後の溶液の分取量(mL)		mL
pH調節		1. 塩酸(1+16)5mLを添加 2. その他
2. その他(右のセルにご記入ください)		
測定波長(nm)		1. 220 2. その他
4. その他(右のセルにご記入ください)		nm

硫酸ヒドラジニウム還元法

加熱分解後の溶液の分取量(mL)		mL
還元温度(°C)		°C
還元時間(min)		min
還元率(%)		% (硝酸性窒素の標準液を用いて亜硝酸性窒素への還元効率を求めている場合に記入する)
測定波長(nm)		1. 540 2. その他
4. その他(右のセルにご記入ください)		nm

銅・カドミウムカラム還元法

加熱分解後の溶液の分取量(mL)		mL
還元用溶液の量(mL)		1. 100 2. その他
2. その他(右のセルにご記入ください)		mL
銅・カドミウムカラム充てん剤		1. 購入 2. 自社調製
1. 購入した場合のメーカー(右のセルにご記入ください)		
還元率(%)		% (硝酸性窒素の標準液を用いて亜硝酸性窒素への還元効率を求めている場合に記入する)
測定波長(nm)		1. 540 2. その他
2. その他(右のセルにご記入ください)		nm

流れ分析法

希釈率		(10倍希釈後にさらに希釈した場合に記入する。希釈しない場合は「1」を記入する)
試料注入量(mL)		mL(希釈後の試料の注入量を記入する。)
測定方法		1. ペルオキシ二硫酸カリウム分解・紫外検出FIA法 2. ペルオキシ二硫酸カリウム分解・カドミウム還元吸光度FIA法 3. ペルオキシ二硫酸カリウム分解・紫外検出CFA法 4. ペルオキシ二硫酸カリウム分解・カドミウム還元吸光度CFA法 5. その他
5. その他(右のセルにご記入ください)		
測定装置-メーカー		1. ビーエルテック 2. 日東精工アナリテック 3. その他
3. その他(右のセルにご記入ください)		
還元率(%)		% (硝酸性窒素の標準液を用いて亜硝酸性窒素への還元効率を求めている場合に記入する)
分解率(%)		% (有機体窒素(尿素)の標準液を用いて硝酸性窒素への分解率を求めている場合に記入する。)
繰り返し性の確認-繰り返し回数		回(検量線の間濃度の標準液を用いて繰り返し性を求めている場合に記入する。)
繰り返し性の確認-繰り返し性CV(%)		% (同上)
測定波長(nm)		1. 220 2. 540 3. その他
3. その他(右のセルにご記入ください)		nm

標準液

メーカー名		1. 富士フイルム和光純薬 2. 関東化学 3. その他 4. 自社調製
3. その他(右のセルにご記入ください)		
使用時の濃度保証		1. 保証期間内 2. 保証期間超過
ファクター		
Lot番号		

定量方法・下限値等

定量方法		1. 絶対検量線法 2. 標準添加法
検量線作成点数		1. 4未満 2. 4以上6以下 3. 7以上9以下 4. 10以上
検量線作成範囲: 最小		
検量線作成範囲: 最大		
検量線単位		1. µg 2. mg/L
検量線濃度の表示		1. 窒素(N) 2. 硝酸イオン(NO3-) 3. 亜硝酸イオン(NO2-) 4. アンモニウムイオン(NH4+) 5. その他
5. その他(右のセルにご記入ください)		
検量線最高濃度応答値		(吸光度、信号強度等。複数測定の場合は平均値)
空試験応答値		(同上、標準添加法では記入しない。)
試料応答値 1回目		(同上)
試料応答値 2回目		(同上)
試料応答値 3回目		(同上)
分析法検出下限値(MDL) (mg/L)		mg/L (試料中の濃度を示す)

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	
計算式	全窒素濃度(mg/L)=